

2025（令和7）年度事業報告書

（令和7年4月1日から令和8年3月31日まで）

I 主要な会議

1 理事会

開催日	議案等	備考
令和7年3月31日	① 評議員会の開催の件 ② 事務局長の任免の件	書面表決
令和7年5月22日	① 2024（令和6）年度事業報告及び決算の件 ② 定時評議員会の開催の件 〈報告事項〉 ③ 2024（令和6）年度資金運用の経過の件	通常理事会 （第1回）
令和7年10月21日	① 2025（令和7）年度収支予算の変更の件 ② 財団規則の制定の件 〈報告事項〉 ① 2025（令和7）年度事業報告（上半期）の件 ② 2025（令和7）年度資金運用の経過の件	通常理事会 （第2回）
令和8年1月20日	① 理事長の選任の件	理事長選定理事会
	① 2025（令和7）年度事業計画及び収支 予算 の件 ② 2025（令和7）年度資金運用の執行方 針及 び計画の件 ③ 服務関係規程の変更の件 ④ 特別顧問の委嘱の件 ③ 臨時評議員会開催の件	通常理事会 （第3回）

2 評議員会

開催日	議案等	備考
令和7年4月1日	① 理事の選任の件 ② 評議員の選任の件	書面表決
令和7年6月24日	① 2024（令和6）年度計算書類等の件 〈報告事項〉 ① 2024（令和6）年度事業報告書の内容の件 ② 2024（令和6）年度資金運用の経過の件	定時評議員会
令和8年2月12日	① 評議員の選任の件 ② 定款の変更の件 ③ 役員等の費用の支給に関する規程の変更の件	臨時評議員会

	〈報告事項〉 ① 2025（令和7）年度事業計画及び収支予算の変更の件 ② 2026（令和8）年度事業計画及び収支 予算の件 ③ 2026（令和8）年度資金運用の執行方針及び計画の件	
--	--	--

Ⅱ 事業報告

【公益目的事業会計】

1 屋久島環境文化村構想推進事業

(1) 環境学習事業

① 自然・文化体験事業

ア 自然・文化体験セミナー

広く全国から参加者を募り、屋久島のフィールドを活用した自然・文化体験学習プログラムを提供するとともに町内外の方々との交流等を行った。

名称			
	内容	開催日	参加者数
まるごと屋久島研修講座～里編～			
	島内一周、バスレクチャー、西部林道、大川の滝の自然観察など	令和7年4月13日	16人
まるごと屋久島研修講座～森編～			
	ヤクスギランド散策	令和7年4月19日	21人
5月セミナー 離島でキャンプ in 屋久島			
	テント設営、野外炊飯、黒味岳登山、塩づくり、ネイチャークラフトなど	令和7年5月3日～5日	2人
7月セミナー 親子で竹あそび！作る・遊ぶ・学ぶ			
	竹を使った食器作り、竹飯盒での野外調理、竹炭石けんづくりなど	令和7年7月5日	20人
8月セミナー Yakushima Outdoor School～先生のための野外学校～ ※最少催行人数に満たず中止			
	ビーチクリーン、テント設営、野外調理、災害時サバイバル術など	令和7年8月2日～3日	—
9月セミナー 水のサイクルを巡る旅 in 屋久島 ※最少催行人数に満たず中止			
	水源の森トレッキング、筏づくり、川下り、漂着物クラフトなど	令和7年9月13日～15日	—
苔・こけ・コケ会			
	押しコケ探し、コケ玉作り	令和7年10月26日	14人

SDGs 企業研修（参加企業：福岡 SUBARU）		
○ 事前研修（福岡市内） 参加企業：福岡 SUBARU 福岡 SBRU の社員に対して、屋久島の概要説明 SDGs 企業研修に関する事前研修を実施 SDGs 企業研修の募集説明	令和 7 年 10 月 14 日	約 400 人
○ 現地研修 屋久島の森との共生 ヤクスギランド観察、SDGs ボードゲーム、中間集 落里めぐり、西部林道散策、島内各事業所視察 など	令和 7 年 12 月 2 日～4 日	16 人

イ ふるさとセミナー

町内在住者を対象に、ふるさとの新たな一面を再発見し、屋久島の自然環境や文化に対する意識の醸成を図るため、屋久島の身近な自然を素材にした体験型研修を行った。

名称			
	内容	開催日	参加者数
<研修センターオープンデー> 研修センターを活動PRの一環として、親子で楽しめる科学実験等の催しを行った。			
	草花で遊ぼう、ぴったり 20g チャレンジ、屋久島フィールドマスター、ふわふわシャボン玉、火起こしチャレンジ	令和 7 年 6 月 15 日	125 人
<自然に親しむ集い> 町内在住者を対象に、屋久島の身近な自然のすばらしさを学ぶため、環境省・屋久島町と共催で、自然観察活動や自然体験活動を行った。			
	第 1 回 コケの世界へようこそ 【主催：屋久島町】	令和 7 年 10 月 25 日	中止
	第 2 回 アサギマダラマーキング会 （原・小島地区）【主催：財団】	令和 7 年 11 月 15 日	25 人
	第 3 回 冬の海の楽しみ方 【主催：環境省】	令和 7 年 11 月 29 日	13 人
<幼児環境教育推進事業> 幼少期における自然とのふれあいを通じ、環境意識の基盤形成を図るため、町内未就学児とその保護者を対象に野外体験活動を行った。			
	第 1 回 焚火でほくほくやお芋の会	令和 7 年 10 月 5 日	12 人
	第 2 回 森であつめて！リースづくり！	令和 7 年 11 月 30 日	11 人
	第 3 回 親子でわくわくチャレンジキャンプ	令和 8 年 2 月 21 日～22 日	12 人

<子どもエコ隊活動事業> 子どもの頃からの自然環境に対する意識を醸成し屋久島の未来を担う人材の育成を図るため、町内小中学生を対象に体験的な環境学習を行う。 「SDGsから屋久島の持続可能な暮らしをかんがえよう！」のテーマで、計2回実施した。			
第1回	屋久島の自然を「つかう」 「かんがえる」編	令和7年6月28日～29日	19人
第2回	屋久島の自然を「たべる」 「つなぐ」編	令和7年11月2日～3日	13人
第3回	屋久島の自然を「まもる」 「そだてる」編	令和8年1月31日～2月1日	10人
やくしま Forestday ～「森と人がつながっている」を実感する1日 in 7000年の森			
	「森と人との関わり」をテーマに様々な団体と協働し、森と人が織りなす持続可能な「共生と循環」の文化を島民に広く普及する。	令和8年2月15日	81人

ウ インターンシップ

インストラクターに必要な資質や技能を高めるため、8月18日から8月31日までの期間に、周南公立大学3年生1名（2週間）と鹿児島大学3年生1名（5日間）に屋久島環境文化研修センターで職場体験を行った。

② 受入事業

人と自然との関わりを理解し、環境保全への意識を高めるため、財団が作成した研修プログラムを活用する宿泊研修、一日研修及び短時間研修を行った。

また、宿泊研修を実施する団体に限り、より効果的な学習の場となるよう、希望する団体には、オンラインでの事前研修を行った。

さらに、鹿児島大学教育センターとの教育協定に基づき、同大共通教育課程で実施する集中講座「屋久島の環境文化」において、環境文化に対する学生の理解を深めるため、屋久島をフィールドとする支援活動を実施した。

区分	令和6年度		令和7年度			
	団体数	参加者数	団体数	前年同期比	参加者数	前年同期比
宿泊研修	48団体	3,114人	45団体	93.8%	2,539人	81.5%
1日研修	25団体	414人	20団体	80.0%	481人	116.2%
短時間研修	4団体	47人	4団体	100.0%	52人	110.6%
合計	77団体	3,575人	69団体	89.6%	3,072人	85.9%

③ 屋久島高校環境学習・交流支援

屋久島高等学校の生徒を対象に、屋久島・口永良部島の自然、歴史、文化について理解を深めるための環境学習に関する研修、他の地域で環境保全活動を行っている団体等との交流に対して支援を行った。

名称			
	内容	開催日	参加者数
宿泊研修			
	実地研修（生物）	令和7年6月12日～13日	8人
宿泊研修			
	実地研修（地学）	令和7年11月13日～14日	8人
宿泊研修			
	実地研修（地歴・公民）	令和8年1月21日～22日	8人

④ 出張屋久島講座

町内の児童・生徒等に、屋久島の環境学習を行った。

名称			
	内容	開催日	参加者数
縄文の宿まんてん			
	五感で感じる！世界遺産屋久島の魅力	令和7年7月19日	35人
	五感で感じる！世界遺産屋久島の魅力	令和7年8月11日	33人
	五感で感じる！世界遺産屋久島の魅力	令和7年11月1日	30人
小瀬田小学校（3・4年生）			
	屋久島型 ESD ボードゲーム「Get The Point」ファシリテート	令和8年1月29日	18人
一湊小学校（5・6年生）			
	屋久島型 ESD ボードゲーム「Get The Point」ファシリテート	令和8年2月5日	13人
合計		5回実施	129人

⑤ ユネスコスクール連携推進事業

町教育委員会等と連携して「持続可能な開発のための教育」（ESD）に取り組む町内教育機関に、町から委嘱を受けたESDアドバイザーとして、積極的にユネスコスクール登録を支援するとともに、SDGsへの理解の促進を図るため、町内の学校等へカードゲームを通じた学習の機会を提供した。

教育機関名			
	内容	開催日	参加者数
安房保育園			

(年少) 葉っぱでスタンプあそび	令和7年4月22日	17人
(年中・年長) うみあそび&かわあそび	令和7年8月25日	31人
(年長) お魚が食卓にあがるまで①	令和7年11月19日	19人
(年長) お魚が食卓にあがるまで②	令和7年11月20日	19人
(年中) じゃがいもが食卓にあがるまで①	令和7年11月26日	13人
(年中) 秋のヤクスギランド散策	令和7年11月27日	16人
(年中) じゃがいもが食卓にあがるまで②	令和8年3月18日	13人

⑥ 屋久島研究講座

町内在住者を対象に、屋久島の自然や文化に関する理解の促進・普及を図り、その未来を担っていく人材を育成するため、屋久島等をフィールドとして調査・研究している研究者や専門家を講師とする講座を開講した。

演題			
講師	開催日	開催場所	参加者数
屋久島における「ホンドタヌキ」の生息状況について～永田地域における調査結果と生態系に対する被害防止の取り組み～			
北海道大学名誉教授 池田 透	令和7年5月27日	屋久島町役場本庁舎議会棟	34人
屋久島における近自然工法による登山道保全の‘今’			
屋久島山岳ガイド連盟 代表 笹川 健一	令和7年6月20日	屋久島環境文化村センター	34人
屋久島の森に生きるサルとシカ ー写真が語る生態			
写真家 奥田 達哉	令和7年9月22日	屋久島環境文化村センター	34人
屋久島のアユの希少性と現状			
鹿児島大学水産学部 准教授 久米 元	令和7年10月7日	屋久島環境文化村センター	49人
屋久島永田浜ラムサール条約登録20周年記念シンポジウム			
東京大学大気海洋研究 所 佐藤克文 外8名	令和7年11月8日	永田小学校体育館	49人
講演会「屋久杉の真実に迫る～屋久杉円板からわかること～」			
九州大学 吉田 茂二郎	令和7年11月18日	屋久杉自然館	28人
町民向け講演会「第13回屋久島学ソサエティ大会」			
天理大学 服部 志帆	令和7年12月13日	屋久島町役場	20人

町民向け講演会「第13回屋久島学ソサエティ大会」			
屋久島公認ガイド 古賀 顕司	令和7年12月14日	屋久島町役場	12人
「天然記念物エラブオオコウモリの保全に向けてできること」			
えらぶ年寄り組 会長 山口 英昌	令和8年2月3日	屋久島環境文化村センター	13人

(2) 環境形成

① 環境保全活動支援事業

ア 山岳部利用対策事業

屋久島の山岳部の環境保全について啓発を図るため、縄文杉デッキにおける登山者へのマナー指導（8月12日、11月22日）や、登山道の点検（3月15日、3月26日）を行った。また、登山者向けのマナーガイドブックを作成し、配布を行った。

イ エコツーリズム支援事業

屋久島におけるエコツーリズムの取組を推進するため、屋久島町エコツーリズム推進協議会へ参画及び支援を行うとともに下記セミナー等を開催した。

その他、自然体験活動指導者（NEAL）養成団体として、広く町内外から希望者を募り自然体験活動指導者養成講習会を行った。

区分	開催日	参加者数
インタープリタートレーニング講座	令和7年6月6日～8日	6人
日本赤十字救急法基礎・救急員養成講習	令和8年1月9日～12日	11人
屋久島ガイドセミナー	令和7年12月22日～24日	24人
野外活動指導者養成セミナー	令和8年1月9日～12日	8人

ウ 研究調査活動奨励事業

屋久島の生物多様性や歴史・文化をテーマに調査・研究する研究者や環境保全の意識向上のための啓発活動等に取り組んでいる団体に対し、支援・助成を行った。

団体等名		
	調査研究等内容	調査研究期間
京都産業大学 生命科学部 高橋 純一		
	屋久島におけるニホンミツバチの保全とハチミツの品質評価	令和5年度～令和7年度
口永良部島哺乳類研究グループ 准教授 藤田 志歩		

	口永良部島における生物多様性保全に向けた哺乳類層の 基盤データ整備	令和5年度～ 令和7年度
鹿児島大学 寺田 仁志		
	屋久島の里地・里山の植生と植物文化	令和6年度～ 令和8年度
兵庫教育大学 山本 将也		
	南西諸島に分布するアカボシタツナミソウの系統地理学的 研究	令和7年度
広島大学大学院 仲渡 千宙		
	口永良部島におけるヤクシカとノヤギが下層植生に与える 影響の解明	令和7年度～ 令和8年度
北海道大学 池田 透		
	屋久島における国内外来種タヌキによるウミガメ捕食等の 生物多様性及び人間社会への影響に対する効果的防除体制 構築に関する調査研究	令和7年度～ 令和9年度
指宿市教育委員会生涯学習課文化財係 松崎 大嗣		
	屋久島における山川石製近世墓の考古学研究	令和7年度～ 令和9年度

エ うみがめ保護対策事業

うみがめの産卵・ふ化場所である海浜の環境を保全するため、遮光林の維持管理や保護柵の設置、海浜の清掃活動を行った。

・ うみがめ保護遮光林維持管理

委託先	委託期間	実施場所
永田区 一湊を語る会	令和7年11月26日～ 令和8年2月28日	永田（いなか浜） 一湊（一ツ浜、二ツ浜）

・ 保護柵の設置及び海浜の清掃活動

主催団体	実施日	実施場所
屋久島町エコツーリズム推 進協議会	令和7年4月25日 令和7年7月22日	永田（いなか浜） 永田（いなか浜、前浜）

・ マリンワーカー事業

環境省から委託を受け、屋久島の主要な海岸において、地元住民及びボランティア等と連携して美化作業を行い、優れた海岸景観の保持及びウミガメ繁殖環境の保全を行った。

実施団体	実施日	実施場所
------	-----	------

栗生区	令和7年8月 31 日	塚崎海岸（第 1 回）
永田区	令和7年 11 月 15 日	永田浜（前浜、いなか浜）
永久保区	令和8年1月 18 日	田代海岸
栗生区	令和8年1月 11 日	塚崎海岸（第 2 回）
財団	令和8年3月8日	永田浜（前浜、いなか浜）
財団	令和8年3月 25 日	永田浜（前浜、いなか浜）

② 屋久島動植物調査等事業

令和 8 年度の改訂に向けて「植物ガイド」の掲載写真収集や説明文等の確認作業を進めた。

(3) 交流推進事業

① 留学生ホームステイ受入事業

屋久島町内在住者と外国人の異文化交流を図るため、屋久島の文化や暮らしの体験、町内在住者と交流活動等を目的とした本事業（コロナ禍により令和 2 年度以降中止）については、受入家庭の調整に課題があり、ホームステイ受入事業の再開に至らなかった。

② 屋久島ファンクラブの加入促進

ファンクラブの認知度向上や加入の促進を図るため、出郷会が主催するイベントへの出展や町内の関係機関や事業所等を訪問し、財団の活動やファンクラブ等の紹介を行った。また、村センターや研修センターの利用者に対しては、やくしまアプリの導入やファンクラブの特典を案内することで、加入の促進を図った。

屋久島ファンクラブ会員数	6 3 7 人
うち令和 7 年度新規加入者	1 3 3 人

③ 財団情報誌の発行

ア 財団会報「屋久島通信」（A 4 版、8 ページ）の発行（2、400 部／号）

全国の屋久島ファンクラブ会員及び関係機関に対して、屋久島の情報を提供した。

号数	発行時期	主な内容
第 90 号	令和 7 年 7 月	一湊湾の魚たちと川と海のつながり
第 91 号	令和 7 年 11 月	屋久島の森に生きるサルとシカ
第 92 号	令和 8 年 3 月	屋久島種子島における湿性草原棲絶滅危惧鳥類の越冬状況

イ 財団機関紙「まるりん通信」の発行（6,100部／奇数月，1,300部／偶数月）

毎月発行し、奇数月は町内の全戸に配布、偶数月は町内の教育機関で全児童・生徒に配布することで、財団の活動状況を紹介するとともに、中核施設への来館、イベントへの参加を呼びかける情報発信を行った。また、バックナンバーも含め、ホームページにも掲載している。

ウ 「やくしまアプリ」等を活用した上記情報誌のデジタル配信を行った。

④ 研究者ネットワークとの連携

屋久島の住民と研究者が共に学び合う組織である「屋久島学ソサエティ」や「鹿児島大学」と連携し、研究者や専門家による屋久島における調査・研究成果の共有と地元への還元を共同で行った。

⑤ 島内関係団体ネットワーク形成

島内の行政機関や関係団体で構成される会議への参画をはじめ、パークボランティア等の各種団体との共同活動へ積極的に参加し連携の強化に努めた。

⑥ 財団ホームページ等の管理運用及び情報発信

財団ホームページ及び「やくしまアプリ」の適正な管理運用を行うとともに、SNS（Facebook や Instagram 等）を活用し、日々新しい屋久島や財団の情報発信に努めた。

⑦ 教育機関との連携

教職員及び生徒の地域貢献等体験研修を積極的に受け入れ、財団の認知度を高めるとともに、郷土の良さや環境等へ視野を広げる取組みを行った。

(4) 屋久島地域づくり支援

① 里のエコツアー推進事業

ア 屋久島里めぐり推進協議会の運営等

協議会運営の事務局として、里めぐり参加者の受付及び集落との調整のほか、集落の語り部のスキルアップ研修等の人材育成を行った。

(参考) 屋久島里めぐり推進協議会

・ 会員

屋久島町、財団、集落（永田、吉田、一湊、宮之浦、春牧、平内、中間、本村、安房、楠川）

・ 目的

屋久島の山岳部へ集中する観光のあり方を見直し、屋久島の里地へ観光の幅を広げ、新たな観光と地域振興の仕組みづくりを進める。

・ 屋久島里めぐり参加者数（受入回数）

集落名	令和5年度	令和6年度	令和7年度
-----	-------	-------	-------

	参加者数	回 数	参加者数	回 数	参加者数	回 数
吉 田	5 人	5 回	4 人	4 回	0 人	0 回
宮之浦	86 人	25 回	149 人	28 回	68 人	22 回
春 牧	99 人	16 回	76 人	11 回	63 人	11 回
平 内	7 人	5 回	58 人	6 回	6 人	4 回
中 間	38 人	10 回	44 人	7 回	62 人	8 回
永 田	31 人	10 回	54 人	9 回	11 人	3 回
一 湊	42 人	15 回	134 人	19 回	57 人	16 回
本 村	11 人	6 回	11 人	3 回	0 人	0 回
安 房	31 人	8 回	26 人	8 回	9 人	8 回
楠 川	26 人	10 回	42 人	11 回	23 人	7 回
合計	376 人	110 回	598 人	106 回	299 人	79 回

※ 吉田集落と本村集落は、受入休止中

イ 里めぐりの推進

里めぐり未実施集落の地域資源の開拓・調査及び実施に向けた支援を行うことにより里めぐり参加集落の拡大を図るとともに、旅行エージェント等向けのモニターツアーの実施及び情報誌等を活用した情報発信等により集客を図った。

ウ 奄美まち歩き団体等との連携

奄美地域のまち歩き団体等との交流促進を図り、相乗効果による地域の活性化と環境文化の継承を図ることを目的に、情報交換を実施した。

エ 屋久島の名所・旧跡等説明看板の利活用及び維持管理

屋久島の里の魅力を発信するため、これまでに設置してきた名所・旧跡等説明看板の利活用を図るとともに、既設看板の維持管理を行った。

② 地域づくり支援事業

屋久島の環境文化に関わる地域づくりに資する各種イベント等の開催や伝統芸能、文化芸術活動に対し支援を行った。

団体等名	
	活動内容
屋久島選抜チーム後援会	
	全国離島交流中学生野球大会 屋久島選抜チーム支援事業

③ 屋久島の未来と環境文化を考える新たな協働事業

ア 世界自然遺産 5 地域が連携した環境文化理念普及事業

世界自然遺産 5 地域会議は、国内の世界自然遺産 5 地域が培ってきた「環境文化」や「共生と循環」の理念を広く発信するため、2022 年に設立され、23 市町村と 2 公益財団法人で構成されている。2025 年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の理念と親和性が高いことから、5 地域が共同で参加し、事務局は屋久島環境文化財団が担った。

令和 7 年 5 月 6 日には「テーマウィーク」枠で、自然保護と暮らしの両立をテーマに事例報告やパネル討議を行った。国内外の研究者や自治体、企業、一般来場者が意

見交換を行い、日本の自然遺産地域の取組みを国際社会へ発信する有意義な機会となった。

続いて6月5日には、EXPOホールにおいて『千の自然・千の時間ー私たちと世界自然遺産5地域会議』を開催し、作文コンクール発表や大型映像とトーク、地域芸能、国際シンポジウム、クロージングの5部構成で実施した。延べ4,000人以上が来場し、フリーアナウンサーの有働由美子氏を総合司会に迎えて広く訴求力のある事業となった。特にクロージングでは、5地域の理念と課題を共有した「世界自然遺産5地域会議メッセージ」を発信し、持続可能な社会の実現に向けた力強い呼びかけを行った。

これらの2つの催事を通じ、暮らしと自然保護の両立モデルを示し、国内外に理解と共感を広げることができた点は大きな成果であり、今後の連携強化や保全活動の発展に資する基盤となった。

事業実施後には、5地域へのアンケートを実施し、意見の集約を行うとともに、その結果を踏まえた総会において事業成果の総括と評価を実施し、今後の5地域連携の在り方について協議した。これらの検討結果を基に、組織運営や事業展開の方向性を整理し、世界自然遺産地域ネットワーク協議会との統合に向けた調整を進めた。

また、大阪・関西万博参加事業の成果を取りまとめた記念映像を制作し、関係者への配布を行ったほか、有識者による環境文化研究会を開催し、大阪・関西万博における発信内容の成果検証を行うとともに、今後の展開について検討を行った。

イ 屋久島における環境文化理念普及事業

令和5年度より取り組んできた「屋久島 SDGs 企業研修」の本格運用に向け、賛助企業等を対象としたモニター参加型セミナーを実施し、研修の課題や改善点を把握してきた。令和7年度は、これまでのセミナーで得られた知見を基に、研修プログラム、受入体制、安全管理の各項目について再検証を行った。また、株式会社 SUBARU との「一つのいのちプロジェクト」パートナーシップ協定に基づく連携事業として、当財団の「SDGs 企業研修」を実施する上で、企業からの意見を踏まえ、プログラム改善の方向を整理することとした。

まず、研修プログラムの全体を通じて SDGs17 の目標に基づき、各テーマごとに伝達すべき内容と受講者に期待する気づきを整理し、研修の達成目標を明確化した。また、座学を可能な限り縮減し、体験活動を中心とした構成とすることで、体験を通じたSDGs 理解の深化を図った。加えて、企業の社会貢献事業を研修プログラム内に組み込み、学びを具体的な行動へと結びつけられるよう内容の再構成を行った。これらの成果や課題を踏まえ、研修の標準化・体系化に資するマニュアルを策定することとした。

普及啓発活動においては、屋久島の自然・歴史・生活が一体となった「環境文化」を多角的に伝える映像コンテンツを制作した。併せて、海岸清掃と体験活動を組み合わせたボランティアイベントを主催し、参加促進と協働による環境保全活動の機会を創出した。

2 中核施設管理運営事業

(1) 中核施設管理運営

屋久島環境文化村中核施設である屋久島環境文化村センター及び屋久島環境文化研修センターの管理運営業務を県から受託（指定管理者）し、その適切な管理を行うとともに、経費節減による効率的な運営及び施設設備の補修等の維持管理に努めた。また、両施設の利用者増を図るための各種利用促進策を実施した。

① 村センター管理運営

入館者

区分	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	対前年度比
入館者数	46,136 人	49,261 人	47,669 人	96.8%
うち有料観覧者数	9,561 人	10,971 人	10,665 人	97.2%

貸出施設

区分	令和 5 年度		令和 6 年度		令和 7 年度	
	利用回数	延べ日数	利用回数	延べ日数	利用回数	延べ日数
レクチャー室	75 回	77 日	69 回	76 日	93 回	104 日
交 流 ホール	回	153 日	3 回	54 日	5 回	85 日
大型映像ホール	7 回	8 日	4 回	5 日	10 回	10 日

ア 施設利用促進策

施設利用促進策については、以下のとおり実施した。

- (ア) 町内宿泊施設等への案内リーフレットの配布・宿泊者への割引制度の実施
- (イ) 鹿児島港南ふ頭や高速船ターミナル、宮之浦港、安房港、町内宿泊施設等へのポスター配布、掲示
- (ウ) 宮之浦港の高速船及びフェリー乗り場における到着時の定期的な誘客活動
- (エ) 県内外の旅行代理店等へ来館の働きかけ
- (オ) 島内外のイベントにおける財団PR
- (カ) 7 月に開館記念イベント「むらせんまつり」を開催。12 月に無料の映画上映会を開催した。
- (キ) 「やくしまアプリ」を活用した広報・活動
- (ク) 展示機器を更新して展示内容の充実を図る。

イ 交流ホール展示

開催日	内容	備考
令和7年7月5日（土） ～7月19日（土）	作品展「絵手紙展」	
令和7年8月5日（火） ～8月9日（土）	写真展「ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ被爆写真展」	

令和7年8月11日(月) ～9月23日(火)	写真展「猿、鹿、屋久島。」	特別企画展
令和7年10月2日(木) ～10月31日(金)	写真展	
令和7年11月21日(金) ～12月4日(水)	作文展	
令和7年12月5日(金) ～12月25日(木)	絵画コンクール受賞作品絵画展	

ウ 映画上映会

施設利用促進と島民の福祉の向上を目的として映画上映会を実施した。

開催日	映画名	来場者数
令和7年12月30日(土)	マイ・エレメント	181人

② 研修センター管理運営

利用者

区分	令和5年度	令和6年度	令和7年度	対前年度比
利用者数	6,725人	4,686人	5,572人	119%

貸出施設

区分	令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	利用回数	延べ日数	利用回数	延べ日数	利用回数	延べ日数
レクチャー室	15回	5日	8回	8日	7回	7日
視聴覚室	4回	4日	0回	0日	0回	0日

ア 施設利用促進策

- (ア) 例年、県内及び県外のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）及び県内小中学校等を訪問し、研修センターの環境学習プログラムを紹介して施設利用促進を図った。
- (イ) 6月にオープンデーを実施した。
- (ウ) 隣接する屋久島世界遺産センター及び屋久杉自然館と連携したイベントの開催等により施設の知名度向上及び利用促進を図った。

③ 財団ホームページ等の管理運用と情報発信

財団ホームページ及び「やくしまアプリ」の適正な管理運用を行うとともに、SNSの活用により、日々新しい屋久島や財団の情報発信に努めた。

④ 教育機関との連携

町教委から研修課職員３人が「ＥＳＤアドバイザー」に委嘱され、「屋久島型ＥＳＤ」の推進やＳＤＧｓの普及のために町内小中学校の職員研修や授業に招へいされ講義等による環境学習を実施した。

【収益事業会計】

書籍物品等販売事業

財団の収益を確保し、公益目的事業を推進するため、屋久島環境文化財団書籍とオリジナルグッズ（マスキングテープ、キャラクターシール、里に特化したポストカード、フェアトレードコットンを使用したポーチ、オリジナルデザイン手ぬぐいやエコバック）、屋久島 WAON カード、屋久島関連書籍とグッズ、屋久島の植物（苔玉等）の販売を行った。

賛助企業とのコラボ商品として財団マスコットキャラクター「まるりん」をデザインした屋久杉の記念ストラップを製作し、屋久島環境文化村センターにて販売した。

【法人会計】

管理費

本部管理費

① 本部管理費

ア 理事会・評議員会

理事会、評議員会を開催し、財団の諸課題等について協議した。

イ 管理運営

財団の効率的な管理運営に努めるとともに、屋久島町内等で企業訪問を行い、賛助企業への加入、協力を呼びかけた。

② 職員スキルアップ事業

各種セミナー、学会、講習会、インタープリターズキャンプ等の参加や調査・研究を支援し、職員のスキルアップを図った。